

原 小 繁 盛 記

令和8年5月28日

呉市立原小学校
校長 梶本浩史

〈令和8年度 原小学校運動会 成功の裏に〉

今回の校長室便りでは、運動会当日の様子ではなく、その成功を支えた「裏側」の取組について紹介したいと思います。運動会当日の子供たちの輝く姿については、各学級便りや学校便り、ホームページ等でもお伝えしますので、ぜひそちらをご覧ください。

運動会当日、子供たちは全力で走り、全力で応援し、仲間と力を合わせながら、実に生き生きとした姿を見せてくれました。しかし、その姿は決して当日だけで生まれたものではありません。そこには、長い準備期間の中で積み重ねてきた努力や工夫、そして多くの人の支えがありました。

1 運動会のねらい等の共有

4月初め、まず教職員に運動会実施計画が配付されます。そして、運動会を通して子供たちにどのような力を付けたいのか、どのような姿を目指すのかについて、全職員で丁寧に確認・共有していきます。

「仲間と協力する力」「最後までやり抜く力」「みんなで創り上げる達成感」など、子供たちに味わわせたい経験を具体的にイメージしながら話し合います。私は、この時間こそが運動会づくりの土台になる、大変重要なプロセスだと感じています。ここが明確になることで、どのような種目を行うのか、どのような指導を行うのかという方向性が定まり、運動会全体の軸ができていきます。

2 種目の選定

子供たちに育てたい力や目指す姿が共有できると、次はそれを実現するための種目選定に入ります。人数や学年の実態に合っているか、安全に実施できるか、運動会のねらいに合っているか、そして何より、子供たち自身が楽しめるか、見に来てくださる方々にも楽しんでいただけるかなど、多面的に検討していきます。

毎年同じ種目を行うこともできますが、できる限り新しい挑戦をさせてやりたいという思いがあります。そのため、教職員は毎年、「今年の原小の子供たちに最もふさわしい種目は何か」を真剣に悩みながら考えています。

3 練習

種目が決まると、いよいよ本格的な練習が始まります。5月下旬の運動会本番に向け、GW明けから学校全体が運動会モードへと変わっていきます。

徒競走やリレーはルールが比較的明確ですが、団体競



技や表現運動は、実際にやってみると様々な課題や改善点が見えてきます。「もっと安全にできないか」「もっと盛り上がる方法はないか」と、教職員同士で話し合いながら修正を重ねていきます。

また、子供たち自身の声が必要なヒントになることもあります。「こうした方がやりやすい」「もっとこうしたい」といった意見を取り入れながら、子供たちと教職員が一緒になって、よりよい演技や競技を創り上げていきました。

もちろん、毎日の練習は楽しいことばかりではありません。暑さの中での練習、繰り返しの動き、思うようにできない悔しさなどから、疲れや飽きが見えることもあります。そんな時、教職員は叱咤激励するだけでなく、「昨日より声が出ているね」「そろってきたね」など、小さな頑張りや成長を認める言葉を大切にしてきました。認められることで、子供たちは再び前を向き、仲間とともに頑張ろうとする力を高めていきます。この積み重ねが、当日の大きな力につながったのだと思います。

4 準備

5・6年生は、自分たちの競技や演技の練習だけでなく、運動会全体を支える重要な役割も担っていました。準備係、放送係、記録係、審判係など、当日の運営に欠かせない係活動に責任をもって取り組みました。どの係も、「誰かがやればよい」のではなく、「自分たちが運動会を支えている」という意識をもって動いてくれていました。また、応援合戦では、応援団長を中心に何度も練習を重ね、大きな声で全校を引っ張ってくれました。本番では、力強い掛け声が運動場いっぱいに響き渡り、会場全体を大いに盛り上げてくれました。さらに、前日準備でも、来賓席の設営やパイプ椅子の準備、遊具への表示貼りなど、多くの仕事に黙々と取り組んでくれました。



単学級の原小学校は、決して教職員数が多い学校ではありません。その中で、5・6年生の働きは本当に大きな支えとなっています。まさに、原小学校の運動会は、子供たちと教職員が一緒になって創り上げる「共同企画・共同運営」の学校行事であることを、改めて実感しました。

5 おわりに

運動会では、当日の華やかな姿に目が向きます。しかし、その裏には、毎日の練習の積み重ね、仲間と励まし合う姿、うまくいかず悩みながらも挑戦し続けた時間があります。そして、多くの人が「みんなのために」と動いてくれた支えがあります。

今年の運動会を通して、子供たちは、「協力することの大切さ」「最後までやり抜くことの価値」「仲間とともに創り上げる喜び」をしっかりと学んでくれたように感じています。

運動会当日に見せてくれた子供たちの笑顔や真剣な表情は、そうした積み重ねの成果そのものでした。これからも、今回の経験を自信に変え、様々な場面で力を発揮してくれることを期待しています。

最後になりましたが、子供たちを温かく支えてくださった保護者・地域の皆様に、心より感謝申し上げます。